

「米づくり」は「土づくり」！！気象変動に負けないように！！

土壌分析結果では、土壌中の腐植、置換性加里、有効態ケイ酸が減少傾向となっており、特に有効態ケイ酸は目標値以下となっています。ケイ酸を含む「パワーシリカ」を秋に必ず施用しましょう。

表1 土壌分析結果の推移(城端・井口地区平均)

	腐植 (%)	有効態 リン酸 (mg/100g)	置換性 加里 (mg/100g)	有効態 ケイ酸 (mg/100g)	pH
R4	4.3	31.8	30.3	35.9	6.0
H30	4.7	25.7	36.9	37.7	6.1
H24	5.2	27.1	38.2	48.5	6.2
目標値※	3~5	15mg	20mg	40mg	6.0~6.5

※洪積粘質:リン酸吸収係数1000~1500の目標値(H24当時の目標値から変更されている)

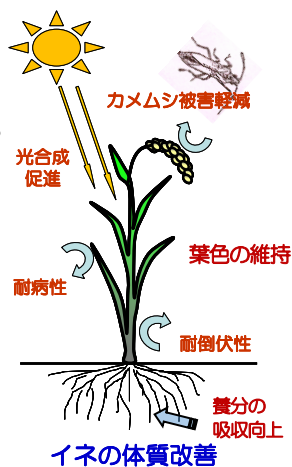


図 ケイ酸の効果

1 土壌改良資材の施用

資材名	施用量(10a当たり)
パワーシリカ	100kg

※「パワーシリカ」を施用した場合は、中間追肥(施用時期:6月)の「エスアイ加里特号」(6月)の施用は不要です。

2 有機物の施用

- ・稲わらと籾がらは焼却せずにすき込みましょう。
- ・完熟堆肥や発酵ケイフンを積極的に施用しましょう。

堆肥名	秋の施用量(10a当たり)
JAなんと完熟堆肥	2m ³ (1t)
発酵ケイフン	150kg

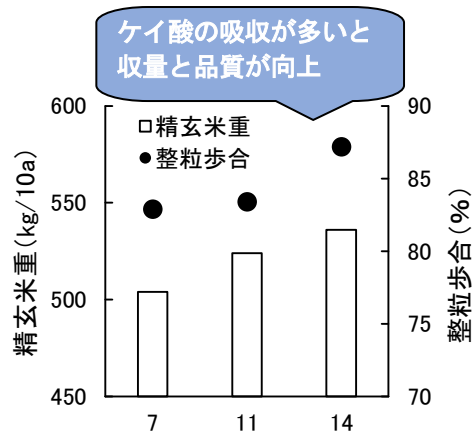


図 成熟期の稲体のケイ酸濃度と収量および品質の関係 (H21 農業研究所)

3 地力増進作物の作付け

- ・堆肥を施用しない場合は、水稻跡にヘアリーベッチ等の地力増進作物を作付けし、土壌の腐植を高めましょう。(営農のてびき P80、81 参照)。

ヘアリーベッチの作付けにより、後作の大豆の基肥を削減できます。ただし、地力増進作物の種子量に限りがありますので事前に相談ください。

4 秋耕の確実な実施

- ・土壌改良資材や堆肥の施用後は気温が高く、ひこばえが出穂しないうち(10月中)に秋耕をしましょう。
- ・秋耕と春耕の2回掛けで、15cm以上の作土深を確保しましょう。

5 排水対策の実施

- ・秋耕後は、排水溝を設置するなど排水対策を行い、水はけを良くし、稲わらの腐熟を促しましょう。

☆「秋の土づくり運動」9月15日~11月15日

お問い合わせは、JAなんと営農部(62-0261) または 砺波農林振興センター南砺班(32-8147)へ

JAなんとメールマガジンの登録はこちらから
当農情をスピーディーにキャッチ！

